

これからの図書館サービスのあり方について

—図書館職員の専門性—

(答 申)

平成18年 4月24日

多摩市図書館協議会

これからの図書館サービスのあり方について—図書館職員の専門性—（答申）

多摩市図書館協議会は、平成16年10月6日付、図書館長から諮問のあったこれからの図書館サービスのあり方について、次のとおりまとめましたので、答申します。

平成18年4月24日

多摩市図書館協議会 会長 野本 勲一

はじめに

平成16年10月6日付で、図書館長から「これからの図書館サービスのあり方について」の諮問が出されました。

その内容は、今後の時代の方向性を見据えた図書館の市民サービスのあり方について、「新たな支えあいの仕組み」によるサービスの向上を勘案して、取り組むべき内容を協議してほしいとありました。

協議会は、市民が求める図書館とは何かを考え、図書館を構成する蔵書・施設・職員の三つの要素の中で、市民ともっとも関わりのある、「職員」について協議することといたしました。職員の専門性について話し合いをするときに必要なことは、利用者の視点に立って、現状の中で何が足りないか、何が必要なのかを検討することです。

協議会では、いくつかの項目に分けて協議をし、実現可能なことをまとめることにしました。

1 職員の専門性

(1) 市民が求める図書館職員のあり方

多摩市立図書館は、年間150万冊の貸出冊数、20万件以上のリクエストという仕事量を抱え、しかも仕事の内容も多様化されてきています。事務的な仕事から、蓄積された専門知識を必要とされるものまで、それぞれの仕事に応じる職員の能力がますます問われています。

最近、図書館職員の異動が頻繁に行われているように思われます。レファレンス、児童サービス、障がい者サービス等、利用者のニーズを的確に把握して行う仕事は、長年の蓄積が必要です。職場の特殊性を十分に考慮すべきです。

専門性を育てるためには、窓口や配架を経験しなければ、市民のニーズの把握や本の知識の蓄積はできません。

図書館職員は、司書資格を取る意欲をもつていただきたいし、行政としても、そうした意欲のある職員には、資格を取る体制を検討すべきです。館長は専門職集団を育てることを積極的に行える見識と専門性が必要です。

利用者は、常勤一般職(正職員)であるとか、嘱託職員であるとか、臨時職員であるとか、分けて見ておりません。中で働いている人は、すべて図書館の職員であると見ています。職員は、常勤一般職、嘱託職員、臨時職員の別なくそれぞれに仕事に自信と使命感を持って、利用者に対応してほしいと思っています。

(2) 研修

図書館職員にとって、研修は必要であり、不可欠なものです。常に新しいことに向かって研さんすることは、職員が仕事をするうえでも大きな自信になります。

最近、常勤一般職の研修の機会が少なくなってきたと聞きました。積極的に研修に参加できる体制をつくる必要があります。また、嘱託職員についても、研修に参加できるように検討すべきです。

2 職員の体制

(1) 三層体制

多摩市立図書館は、現在三層体制(常勤一般職、嘱託職員、臨時職員)を取っています。本来ならば、司書資格のある常勤一般職が多くいる体制が望ましいわけですが、現在の財政状況では、無理があるという判断から、このような体制を取っているものと思われます。

しかしながら市役所の中で、非常勤職員が常勤一般職の2倍近くいる職場はないはずです(※常勤一般職43名、嘱託職員19名、臨時職員57名)。職員構成について、真剣な検討が必要です。 ※平成18年4月の人数

(2) 職員会議の確保

職員会議の機会が日常の仕事の忙しさからか、少なくなっているように思われます。館長会議、担当者会議だけでなく、時々様々な課題・目標を皆で共有するために職員全体の会議が必要です。職員のコミュニケーションを図る意味からも、少なくとも3ヶ月に一度は開くことが大切です。

(3) 行政・郷土資料の充実を図るために

平成15年度に行政資料室の業務の一部を図書館に移管し、本館に行政・郷土資料コーナーが設置されました。今後、庁内各課とも十分に連携を取り、資料を収集すると同時に、整理、保存に努めていただきたいと思います。市内の各機関にも働きかけ、当市に関連する資料は、できるだけ多く収集する必要があります。

行政・郷土資料は、当市独自の資料です。他から借りられるものではありません。散逸することのないように収集・整理されることを望みます。

また、折々に市民に広報すべき行政資料を分かりやすい場所に展示し、情報公開に努めてください。郷土資料の魅力的な展示会が行われることも期待しています。

3 市民協働の促進

(1) 利用者懇談会の設置

図書館協議会には、諮問に関わる審議事項以外の事項が多く提案され、協議会の中だけでは審議がつくせないという事態が起こっています。今後、利用者懇談会を設置し、図書館協議会と利用者懇談会の話合いの内容を明確にし、利用者の意見をくみ上げていく必要があります。

(2) 各館でのボランティアとの協働活動

各図書館では、市民ボランティアや中学生ボランティアによるおはなし会が月1回程度開催されています。

児童サービスにおけるボランティア活動は、図書館が方針をきちんと各方面

と討論した上で、行われるべきです。

(3) 中学校職場体験学習

図書館は図書館ボランティアの育成、職場体験の受け入れ、調べ学習での図書館利用、中学生コーナーの充実などに取り組んでいます。成長期の子どもたちが豊かに生きる力を、読書を通じて育成していく取り組みが望まれています。これからも中学生が図書館にきて、いろいろな活動ができる場を提供して欲しいものです。

おわりに

「図書館職員の専門性」を答申という形で、協議の内容をまとめましたが、委員の皆さんの考え方を十分にまとめるところまではできませんでした。

今、図書館は、指定管理者制度や民間委託の導入が検討されています。多摩市立図書館は、市民の図書館として、職員の努力と市民の協力で長年にわたって築きあげてきた歴史があります。

私たち、図書館協議会は、図書館が市直営として継続され、多くの市民の皆さんから喜んで利用される図書館であってほしいと願っています。

(付記)

図書館協議会は、図書館施設についての協議を幾度か行いました。ついでには中央図書館建設を前提として、平成17年7月に中間報告した「中央図書館の整備に向けての提案」を、多摩市総合計画審議会に提出しました。

第四次多摩市総合計画の後期基本計画（戦略プラン）では中央図書館機能の整備について、市民を交えた懇談会等により、検討することになっています。

私たち図書館協議会は、近い将来、豊富な蔵書とすばらしい施設と心温かな専門性を持った職員がいる中央図書館ができることを心から期待をしています。

多摩市図書館協議会 委員名簿

任期 平成16年5月1日～平成18年4月30日

区分	氏名	構成	備考
会長	野本 勲一	元くにたち中央図書館長	
副会長	青木 洋子	多摩市文庫連絡協議会 副会長	
委員	竹中 淑子	中央大学講師	
〃	堀江 亜子	著述、朗読講師（市民公募）	
〃	上條 茂	西愛宕小学校校長	
〃	小川 達夫	鶴牧中学校副校長	任期 平成18年3月31日まで
〃	平野紀美子	情報専門員（市民公募）	
〃	成澤 尚子	福祉ボランティア	任期 平成17年8月19日から 平成18年4月30日まで

協議経過

回	定例会開催日		協議内容
1	平成16年度第2回定例会	平成16年10月6日	図書館長より、これからの図書館サービスのあり方について諮問
2	平成16年度第3回定例会	平成16年11月15日	答申に対する進め方 多摩市民から求められている図書館機能と多摩市立図書館ネットワークの現状についての意見
3	平成16年度第4回定例会	平成17年1月17日	答申の進め方についての確認 多摩市立図書館の課題についての意見
4	平成16年度第5回定例会	平成17年2月7日	第四次総合計画についての確認
5	平成17年度第1回定例会	平成17年4月25日	第四次総合計画（中央図書館）に対する意見
6	平成17年度第2回定例会	平成17年7月11日	中間報告「中央図書館の整備に向けての提案」についてまとめ
7	平成17年度第3回定例会	平成17年11月14日	これからの図書館サービスのあり方について、図書館職員の専門性についての意見
8	平成17年度第4回定例会	平成18年1月30日	図書館職員の専門性についての意見
9	平成18年度第1回定例会	平成18年4月24日	図書館職員の専門性についての意見 答申のまとめ

16多教生図第392号

平成16年10月6日

多摩市図書館協議会

会長 野本 勲一 殿

多摩市立図書館長

中田 公生

これからの図書館サービスのあり方について（諮問）

標記の件について、図書館法第14条第2項の規定に基づき、諮問します。

平成16年2月に策定いたしました、「多摩市行財政再構築プラン」では、単に経費を削減するだけにとどまらない、時代の方向性を見据えた抜本的な行財政の構築に向けた取り組みを行い、多摩市という地域の価値を市民とともに形成し、本市の新たな未来を切り拓く第一歩とするとしており、図書館においても社会環境の変化等に即した見直しなどを行いました。

一方、業務の効率的な執行と市民サービスの向上として、利用者から特に要望が多いインターネットを利用した蔵書の検索・予約等を含めた幅広い情報提供を行うことを位置付けています。

今後は、まさに、時代の方向性を見据えた市民サービスが求められ、「新たな支えあいの仕組み」による市民サービスの向上が目指していく必要があります。

このようなことを勘案して、これからの図書館サービスのあり方について、多摩市立図書館が取り組むべき内容を提案し、協議していただくようお願いします。